MONKU

丹野乃歌

私は、学校に帰って来てから１週間を女子寮のごらく室に住んでいた。ごらく室には、ソファー、ピアノ、たくさんのマンガなど普段暮らしている部屋には無いものがあった。６月３日に農業検定の中級試験があり勉強をせねばと思い、私の中で一番真剣にテスト勉強をした。朝食後、昼食後すぐに学校へ行きほうか後も夜も勉強に取り組んだ。いつもより体温が少し高くなりコロナかと不安になったが知恵熱だった。初めてのことだった。知恵熱なんて本当にあるのかと驚いた。結果、中級は落ちてしまった。でも結果としては良かったと思っている。ただ漢字を頭に詰め込み、読み方の分からない物をひたすらに覚えて合格をしても２日後にはすべてなくなる。だからあせらず次の１月の試験までゆっくり１問ずつ理解してやっていきたいと思っている。

　私の今回の意見発表はこのことではない。少しずれたが本題に入ろうと思う。私はごらく室に住んでいて、中級があるのにも関わらず、とあるものに負けてしまった。マンガという存在に。合計十冊くらいは読んでしまった。その中におもしろいものがあった。『百姓貴族』というマンガだ。一巻目だけでも心に刺さる言葉がたくさんあった。例えば、「野菜嫌い、お金払ってんだからいただきますなんて言わなくていいでしょ。などという消費者の言葉を聞いた時、食料供給ストップしてあいつら飢え死にさせてやろうかいと思います。とか、「北海道が日本の一部でなければ私たちはほぼ外国の物を食べ、もし外国からの輸入がストップしてしまったらすぐ飢えて死ぬ」と言っていた部分があった。私は北海道の農家さんがストライキを起こしたらと考えると恐ろしいと思った。服がなくても生きてはいける住むところがなくても生きてはいける。しかし、食べ物がなければ生きてはいけない。私はもう一度、農家さんに対して食べ物に対して考えを改めていかないといけないと考えた。

　今、ロシアとウクライナが戦争をしている中で小麦粉が手に入りにくくなった。そこで最近は米粉が注目を集めている。しかし、戦争が終わり、小麦粉が手軽に手に入る状態になったらまた戻ってしまうのか。私はこのことをきっかけに日本の自給率をあげるために力をいれ、食品ロスを減らすことをもっと国全体で改善しないといけないのではないかと考えている。

　そこでまずは、私たちの住んでいる愛農からこのことを実践し、地域の人にも広めていろんな人が友達や親せきに広め、日本全体の意識が変われば、何か変わるかもしれない。

　だから愛農でまずしないといけないこと、それはやはり普段の食事の廃棄ゼロだ。味噌汁が特に目立つように思う。そこで私は考えた。なぜ味噌汁は残るのか。結論味噌汁がおいしくないからにたどり着いた。残念ながら作物部の味噌の味だろう。だからと言って飲めなくはないと思う。味噌汁を捨てるということは、その中に具として入っている、タマネギ、キャベツなど野菜部の人が作ってくれた野菜を捨てているという事だ。そして私たちのために料理をしてくれた、レミさんやパクさんにがんばって作ってくれたものを捨てさせるということになる。それは食材を、料理を作ってくれた人に失礼で、とても悲しいことだ。それを深く考えないで行っているということ、私は謝らないといけないと思った。

野菜部の皆さん、農家の皆さんごめんなさい。

それに愛農で捨てられているのは味噌汁だけではない。

トリの解体をしたことがある人はわかると思うが命を殺していただいてる。

ニワトリの解体ははじめに首の太い血管を切り、血を抜く。私はこの作業が苦手だ。生温かい羽をつかみ、血管を切る。羽毛があり包丁がうまく入らず、薄皮を切るだけではチョロチョロとしか血が出なくきれいに殺してあげられなかった。私がちゅうちょして力をあまり入れられなかったからだ。ずっとニワトリがうなっている。苦しまなくていいように殺してあげられなくてごめんという気持ちでいっぱいになる。正直２回目はやりたくないと思った。でも命をいただくってそういう事なんだと思う。だから、なるべく苦しまなくていいように上手になりたいとも思った。

だから、いただいている命のことを考えて。

みんなで残飯ゼロにしませんか。一人がいつもより少し多く飲むだけで余っているものを食べるだけでみんな嬉しい、得しかないのではないだろうか。もう少し食べるだけでレミさんやパクさんが笑顔になり、しつこく味噌汁を飲めという人も、飲む味噌汁がなければ言う必要がない。作ってくれた農家さんもうれしい、みんなハッピーだ。ぜひみんなで残飯ゼロに取り組み農家さんの笑顔のために実行していきませんか。